

はしがき

「生活×リスクマネジメント×デザイン」をテーマに本書はまとめられている。

生活リスクマネジメントの権威である奈良由美子教授は、「生活者による生活リスクマネジメントは、生活上のリスクとその悪影響を、計画的で効率的な資源の獲得や分配をもって小さくしようとするもの」と定義した。そして、その目的を「生活の安全・安心を確保することによって生活のよりよさの実現に資すること」とした（奈良由美子『改訂版 生活リスクマネジメント』放送大学教育振興会、2017年、98-99頁）。

一方、コミュニティデザインの専門家である山崎亮教授の言葉を借りれば、デザインとは「課題の本質を掴み、それを美しく解決すること」である。また、生活上のリスクに直面する私たちがそれに対応するきっかけを作るのがリスクマネジメントのデザインだと考える（山崎亮『コミュニティデザイン』学芸出版社、2011年、235頁）。このような意味合いで、本書ではデザインという言葉を使っている。

本書をまとめるうえでヒントを得たのが、2018年1月31日と2月1日にロンドンにあるロイヤル・カレッジ・オブ・アート（RCA）で開催された Design for Safety（安全のためのデザイン）というシンポジウムである。「アート・デザイン部門」で世界大学ランキング第1位のRCAでは、インダストリアル・デザイン分野のアッシュリー・ホール（Ashley Hall）教授らが中心となって、船舶やテムズ川の安全をデザインすることに取り組んできた。筆者は、そのワークショップに、Design for Safetyの実例として「スーパーフェンス」（高槻市・港製器工業）の小型見本を持参して参加した。これは地震で倒壊する危険性のある古いブロック塀を代替する「木の塀」である。

「安全のためのデザイン」については、安全な街づくり、機械の安全設計、安全標識・ピクトグラムなどさまざまな分野がすでにあるが、RCAの取り組みなどで、より一般化していくことが期待される。この流れを受けて、本書で

は Design for Risk Management (RM) という考え方を着想した。

こうした考え方をベースに、本書は、関西大学における3つの講義の教科書となるように編集した。共通科目「学生生活とリスク」、社会安全学部寄付講座（日新火災海上保険株式会社、株式会社アドバンスクリエイト）「安全・安心な社会を支える保険制度」、社会安全学部「経営学概論」である。まことに拙い内容だが、本書がリスクマネジメントの学習者に参考になれば幸いである。出版にあたっては、日新火災海上保険(株)、(株)アドバンスクリエイト、大森勉さん、安生誠さん、辻廣道さんをはじめとする多くの方にお世話になった。心より感謝申し上げたい。

2018年2月

亀井克之

Grand Design for Risk Management

リスクを伴う決断を支える「リスク感性」の向上

- ① 異文化体験
- ② 異なる分野・立場・年代の人との交流
- ③ 芸術に触れること（絵画を見る、文学を読む、詩を読む、音楽を聴く、演劇を観る）
- ④ 歴史上の人物や経営者が、いかなる決断をしたかを学習

USJのアクション・コード

Decide Now. Do it Now. …… 今決めよう。今しよう。

Everything is possible. …… あらゆることには可能性がある。

Swing the bat! …… バットを振ろう！（行動に移そう）

リスクマネジメントの「リ」論

【リスクの「リ」——ジレンマ（決断の分かれ道）】

先送り……………先送りする ←→ 今すぐ実行する

縦割り……………縦割りで全体のリスクが見えない ←→ 横のつながりを持つ

偽り……………嘘をついてそれが発覚 ←→ 指摘される前に正直に公表

見て見ぬふり…「否認」 ←→ 都合の悪い事実を受け入れる 聴く耳を持つ

